

学校卒業後における障害者の学びの場の支援に関する実践研究事業 (障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究)

事業名・内容: 障害者の生涯学習活動への地域包括的支援

(ア) 学校から社会への移行期における学習プログラムの開発・実施

(イ) 生涯の各ライフステージにおける学習プログラムの開発・実施



長崎県の現状と課題

- ① 小中学校で発達障害の可能性のある生徒の在籍率6.5%(H24文科省)→長崎県推定数7206名(H28)
- ② 特別な配慮が必要な生徒: 小中学校9.8%・高校3.8%(H27)、発達障害の可能性のある生徒: 小中学校7.6%・高校2.3%(H27)、通級指導教室利用児1835名(H27)
- ③ 小中学校の特別支援学級在籍者数1621名(H27)、特別支援学校高等部在籍者数767名(H27)、特別支援学校高等部卒業生の就職率32.4%(H26)
- ④ 特別支援学校キャリア教育充実事業(H29開始)
- ⑤ 15-39歳ひきこもり者推定数5818名(H27)
- ⑥ 小中高の不登校者数1680名(H28)
- ⑦ 30歳未満の自殺者数18名(H28)

課題: 学校卒業後の学びの場が少ない

- ① 知的障害者を対象とした「カレッジながさき(4年)」
- ② 発達障害者を対象とした生活スキル応援講座や就労準備講座、職業訓練(2年)、他

連携協議会の開催及び効果的な実施体制や連携モデルの構築

(ア) 学校から社会への移行期における学習プログラムの開発・実施【目標: 仲間と出会い、自分の特性を知る】

- ① 対象: 発達障害者、精神障害者、他
- ② 内容: 先輩当事者の体験談、疾患・障害の心理教育、他
- ③ 特色: 先輩当事者との交流、ピアサポーターによる講義及び演習、大学生との共同学習、他

(イ) 生涯の各ライフステージにおける学習プログラムの開発・実施【目標: 夢や希望を持って生活できる】

- ① 対象: 精神障害者、発達障害者、他
- ② 内容: リカバリーストーリー、WRAP、SST、当事者研究、他
- ③ 特色: 英国のRecovery Collegeを参考に、当事者と専門職がCo-productionの理念のもと、協働しながら運営・実施

コーディネーター等の配置やボランティアの活用方策等の開発

